

授業概要

本コースの目的は、世界各地に見られるさまざまな文化を比較考察しながら、「文化」そのものについての理解を深めることにある。「文化」を学ぶにはいくつかの方法があるが、ここでは、文化人類学者により研究されてきた、いくつかのテーマを取り上げながら講義する。あわせて、学生みなさんの興味関心あるテーマも積極的に取り上げていきたい。そこで、授業では、ディスカッションの機会を設ける予定である。それにより、みなさん一人ひとりが「大学で学問することの意味」、「みずから学問することの意味」について、深く自問自答していただければ幸いである。なお、教室での学びとは別に、「ポスター・プロジェクト」、「博物館プロジェクト」という、各自の問題意識にもとづいて取り組む課題も用意されている。よって、本コースでは授業・課題ともに、みずからの主体的な関与が求められることに注意していただきたい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：コースの紹介、授業の進め方、課題の提出、評価の方法など
第 2 回	イントロダクション：文化人類学とは？
第 3 回	「文化」をめぐるさまざまな概念
第 4 回	「フィールドワーク」と「民族誌」
第 5 回	文化人類学の歴史を概観する
第 6 回	さまざまな生業
第 7 回	社会階層と権力
第 8 回	ポスター・プロジェクト発表会
第 9 回	婚姻・家族・親族
第 10 回	性とジェンダー
第 11 回	宗教、信仰、儀礼
第 12 回	神話と民間伝承
第 13 回	文化的アイデンティティの表出：芸術
第 14 回	さまざまな言語
第 15 回	博物館プロジェクト発表会
第 16 回	定期試験

到達目標

1. 文化人類学の代表的な理論について説明できる。
2. 文化人類学に特徴的な相対主義的立場から、世界の文化的多様性について理解を深める。
3. 文化人類学の視点をを用いて、現代世界が抱える諸問題について自分なりの考えを述べることができる。

履修上の注意

大学生としての自覚を持ち、みずからの責任を果たすこと。ここでいう「みずからの責任」とは、授業に出席するだけでなく、積極的に参加・発言し、そして課題を時間厳守で提出することである。単位は与えられるものではなく、みずから取りに来るものである。

予習・復習

その日の講義で扱うテーマについて、自分なりの理解や問題意識を持って授業に臨むこと。そのためには、教科書を前もって読んでおくことが望ましい。また、授業後には、学習した内容についてクラスメートと議論を交わし、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。さらには、授業や課題で学んだことを応用しながら、現代世界の諸相を自分なりに紐解いてみる、知的好奇心あふれる姿勢を育てていただきたい。

評価方法

以下の方法により総合的に評価する。なお、学期を通じて授業に 2/3 以上出席しないと、定期試験の受験資格を失う（つまり単位の取得が「不可」になる）ので注意すること。①授業参加姿勢 10%、②ポスター・プロジェクト（発表を含む）20%、③博物館プロジェクト（発表を含む）20%、④定期試験 50%

テキスト

- ・教科書名：文化人類学入門：古典と現代をつなぐ 20 のモデル
- ・著者名：山下晋司 編
- ・出版社名：弘文堂
- ・出版年 (ISBN)：2015 年 (4-335-56106-7)